

令和8年度企画展(会期：令和8年6月10日(水)～8月2日(日))

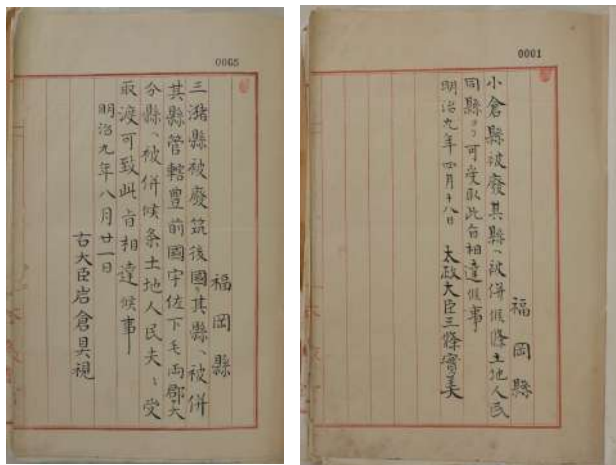
福岡県ができるまで

Kyushu Historical Museum Exhibition guide

はじめに

令和8年(2026)、福岡県は現在の県域が確定してから、150年の節目の年を迎えました。これを記念して現在の福岡県成立までの歴史をご紹介します。

福岡県は、江戸時代に県域を統治していた各藩の組織を前身としています。幕末期、県内の各藩はそれぞれの立場で動乱の時代に向き合い、明治維新を迎えます。維新後、^{はんせきほうかん}版籍奉還を経た各藩は、新たに藩主を知事として新時代での姿を模索しますが、明治4年(1871)の^{はいはんちげん}廃藩置県によって、新たに県となりました。そしてその後、複数回の合併を経て、明治9年(1876)に県域が確定されています。



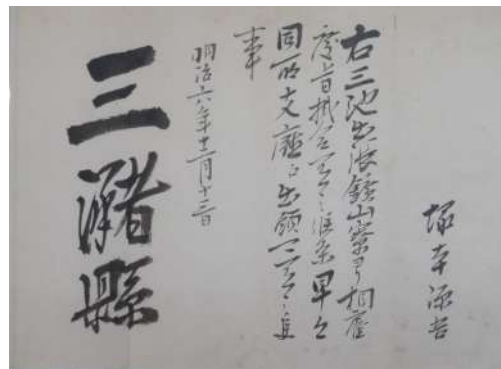
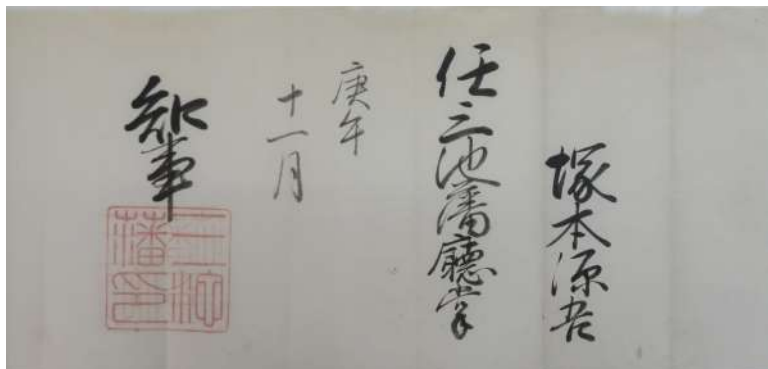
小倉県と三潁県を、それぞれ福岡県と合併させることを通知した文書を収めた「官省御内達」(福岡共同公文書館所蔵)

1 幕末維新と藩

江戸時代、現在の福岡県域は、主に福岡藩、小倉藩、久留米藩、柳河藩(柳川藩)の4つの大藩と、これらの支藩等で構成されていました。やがて西洋諸国が日本に接触すると、外国とどう接するか、そして政治の中心を幕府とするか、天皇とするかをめぐり、幕末の動乱が始まります。この時、福岡藩や久留米藩では、藩論の統一まで内部対立が続き、小倉藩は対岸の長州藩との戦争に巻き込まれ、多くの犠牲を出しました。

やがて明治維新を迎えると、明治新政府は直轄地に置いた府や県と並んで、大名(藩主)の領地を改めて藩と規定します。明治2年(1869)の版籍奉還で、各藩の藩主は改めて天皇から藩の知事に任命され、その下で新たな藩づくりも試みられます。たとえば、豊津藩(旧小倉藩)では、外国人教師を招いた洋学校を設置しています。一方、幕末維新の動乱は各藩に深刻な財政難を招き、福岡藩ではその打開策として新政府の紙幣を偽造、後に発覚して知事が罷免されました。そして明治4年(1871)、政府は全ての藩を廃止して政府直轄の県とする廃藩置県を発令し、藩の歴史は終わりました。

筑前茜染日章旗：福岡藩の飯塚付近では近世、筑前茜染という染色技法が行われていました。幕末、この技術は薩摩藩が試みた日章旗(日の丸)の製作に活かされており、後に当時の日の丸の再現も行われています。



三池藩辞令(左)と三潁県辞令(右、いずれも当館蔵)、同じ人物に出された辞令だが、発行元が藩から県に変化している。
※三池藩は柳河藩の南に所在、三潁県は久留米・柳河・三池藩領などを統合して置かれた県で、明治9年に福岡県に合併。

2 福岡県の成立と展開

廃藩置県の時は、かつての藩をそのまま県に置き換えたため、全国には300以上の県が存在しました。現在の福岡県域にも、福岡藩を受け継いだ福岡県に加えて、多くの県が設置されていました。

同じ明治4年(1871)、大規模な統廃合が行われ、筑前国には福岡県、豊前国には小倉県、筑後国には三潁県が成立します。この3つの県は、西洋風への文明開化や地租改正など、明治政府の打ち出す改革を現地で実行する役割を担いました。たとえば福岡県の布告には礼服として洋服(燕尾服)の採用、小倉県の

布達には電信の開通、そして三潁県の告諭には断髪
の推奨が記されています。一方で旧藩に仕えていた士族(元武士)の多くは職と収入を失い、新たな生き方への転換も迫られていました。

明治9年(1876)、再び府県の統合が行われ、4月に小倉県が福岡県に合併します。8月には三潁県も福岡県に合併することとなり、現在の福岡県域が確定しました。なお、構想のみでしたが、明治36年(1903)にもさらなる合併が国で計画されています。

その後の福岡県は、議会の設置や後の九州大学の誘致などを経て、九州の中核へと発展していきます。

(文化財企画推進室 渡部邦昭)

本展の展示資料一覧

| 番号 | 史料名 | 年次 | 資料群名 | 所蔵 |
|----|----------------------|---------------|---------|----------|
| 1 | 魯西垂船図 | 嘉永6年(1853)頃 | 小川文書 | 個人 |
| 2 | 平野國臣先生銅像除幕式記念絵葉書 | 大正4年(1915) | | 九州歴史資料館 |
| 3 | 真木和泉守銅像絵葉書 | 大正～昭和時代(20世紀) | | 九州歴史資料館 |
| 4 | 五卿関係遺蹟 | 昭和9年(1934) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 5 | 絵葉書 | 明治～昭和時代(20世紀) | | 九州歴史資料館 |
| 6 | 綱領 第十四巻 | 明治25年(1892)頃 | 黒田家文書 | 九州歴史資料館 |
| 7 | 小笠原城蹟小倉名勝えはがき | 明治～昭和時代(20世紀) | | 九州歴史資料館 |
| 8 | 御達書 | 慶応3年(1867) | 黒田家文書 | 九州歴史資料館 |
| 9 | 鎮将府日誌 第五・六・七・八 | 明治元年(1868)頃 | | 九州歴史資料館 |
| 10 | 綱領 第二十巻 | 明治25年(1892)頃 | 黒田家文書 | 九州歴史資料館 |
| 11 | 三池藩辞令 | 明治3年(1870) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 12 | 太政官辞令 | 明治2年(1869) | 小川文書 | 個人 |
| 13 | 村庄屋心得条目 | 明治2年(1869) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 14 | 豊前ノ洋学校 | 近代(19～20世紀) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 15 | 福岡藩庚午藩難有栖川宮殿下御入藩始末聞書 | 明治28年(1895) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 16 | 太政官布告等写 | 明治4年(1871) | 松村(ム)文書 | 九州歴史資料館 |
| 17 | 沙汰書 | 明治4年(1871) | 上松家資料 | 個人 |
| 18 | 綱領 第二十二巻 | 明治25年(1892)頃 | 黒田家文書 | 九州歴史資料館 |
| 19 | 柳河伯爵立花家庭園絵葉書 | 明治～昭和時代(20世紀) | | 九州歴史資料館 |
| 20 | 筑前茜染日章旗 | 昭和時代(20世紀) | | 九州歴史資料館 |
| 21 | 筑前国続風土記 巻之廿七・廿八 | 弘化3年(1846) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 22 | 藩難史料 | 大正～昭和時代(20世紀) | 黒田家文書 | 九州歴史資料館 |
| 23 | 旧千束県明治八年給禄渡方帳 | 明治8年(1875) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 24 | 奉伺候 | 明治6年(1873) | 東下村史料 | 九州歴史資料館 |
| 25 | 小倉県布達録 第一号 | 明治5年(1872) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 26 | 三潁県辞令 | 明治6年(1873) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 27 | 旧三潁県士族金禄調帳 | 明治8年(1875) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 28 | 興産義社創立要旨 | 明治14年(1881) | 永江純一文書 | 九州歴史資料館 |
| 29 | 福岡県布告 | 明治6年(1873) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 30 | 辞令原簿 雑吏ノ部 明治八年 | 明治8年(1875) | | 福岡共同公文書館 |
| 31 | 三潁県告諭 | 明治6年(1873) | 永江純一文書 | 九州歴史資料館 |
| 32 | 小倉県布達 | 明治6年(1873) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 33 | 地租改正事務局達 | 明治9年(1876) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 34 | 官省御内達 | 明治9年(1876) | | 福岡共同公文書館 |
| 35 | 演説書 | 明治9年(1876) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 36 | 福岡県布告 | 明治12年(1879) | 伊東尾四郎文書 | 九州歴史資料館 |
| 37 | 福岡県会議場一覧表 | 明治14年(1881) | 永江純一文書 | 九州歴史資料館 |



編集 発行: 令和8年6月10日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <https://kyureki.jp>